

【中家監査委員】

◎ 東京2025デフリンピックを通じた障がい者スポーツの理解促進について

- 私の意見について、2点お話を差し上げたいと思います。
- まずは、文化スポーツ観光局スポーツ課における東京2025デフリンピックを通じた障がい者スポーツの理解促進についてでございます。
- 現状、当局からの聴取内容につきましては、県におきましては、令和7年11月に日本で初開催されたデフリンピックの機運醸成に向けた取組として、同年10月に「デフリンピック直前イベント&壮行会inかながわ」を開催しました。
- また、そのほか、県内在住等の親子を対象にしたデフリンピック観戦バスツアーなど、様々な取組を行ったとのことでした。
- しかしながら、そのうちの観戦バスツアーについてですけれども、バレーボールなどの5競技で計250人を募集したところ、467人の応募がございました。
- しかし、実際の参加者は159人とどまる、ということであり、この原因については、無料企画であったことや、集合時間が早く、会場までのバスによる移動時間が長かったことなどがキャンセルの主な要因と聞いております。
- こういう状況につきましての意見でございますけれども、
- デフリンピック開催を契機に実施した県の様々な取組によって、デフリンピック、さらには障がい者スポーツに対する県民の認知度が向上したことについては、今回の事業の重要な成果であったと考えています。
- 一方で、今回こういった様々な取組を行った中で、想定どおりにいかなかったという改善点や、見直すべきところ、実際の参加者の感想や意見等といったところは、非常に貴重な財産としてですね、今後の事業にしっかりと活かしながら、聴覚障がい者に限らず、様々な障がい者スポーツへの更なる理解促進を図るとともに、誰もがスポーツを楽しめる環境構築や普及啓発に努めていく必要がある、というふうに考えております。

◎ 少年非行防止対策の取組状況について

- 続きまして、2点目でございます。
- 警察本部少年育成課に係る意見でございまして、少年非行防止対策の取組状況について申し上げます。
- まず、現状、当局からの聴取内容でございますけれども、
- 令和7年の非行少年に係る検挙等人数の総数は、1,903人となっており、前年より35人減少しておりますが、昨今、なかなかメディアで見聞きすることが減らない特殊詐欺や薬物事犯等で検挙される少年の人数は、残念ながら増加しているということでございます。
- 特殊詐欺対策としては、県内高校協力の啓発用DVDや著名人出演動画を活用した啓発活動のほか、「特殊詐欺救出テレホン『SOS』」による電話相談を実施しているということでございます。
- また、少年非行防止対策の取組として、学校等関係機関と連携した非行防止教室なども開催していますが、そういった社会とのつながり、学校でつながっている少年には、普及啓発などこういった取組を実施しているということですが、いわゆる無職・有職少年に対する非行防止対策の認知・普及をどのように図っていくか、推進していくかについてが非常に課題となっていると聞いております。
- これに関わる私の意見でございますが、
- 今年5月に栃木県上三川町で起きた強盗殺人事件では本県の高校生が逮捕されましたが、この事件のように、少年が大きな犯罪集団の中で、使い捨ての実行役とされる危険性があるということを、少年によく理解させることが非常に重要であるというふうに考えます。
- そのため、学校での非行防止教室等は非常に有効な手段であると考えられまして、

小中学校や高校に在籍している児童・生徒であれば、こうした関係機関などを通じて啓発することが可能なわけですが、学校等に属していない、社会から孤立している状況にある少年については、犯罪等に関与してしまうリスクが高くなってしまふことが考えられると思います。

- そのため、警察本部においては、ハローワーク等の相談窓口に闇バイト加担防止に関するチラシを配架するなど、学校に通っていない少年や無職の少年等に向け、あらゆる機会を捉えた情報発信を行っているということは承知しておりますが、こうした少年にも届くよう、ぜひ引き続き、工夫しながら啓発活動を行っていただきたい、というふうに思います。
- 私からは以上でございます。

【黒岩知事】

◎ 東京2025デフリンピックを通じた障がい者スポーツの理解促進について

- 中家委員から、「東京2025デフリンピックを通じた障がい者スポーツの理解促進」についての御意見をいただきました。
- 東京2025デフリンピックは、大会そのものを盛り上げると同時に、聴覚障がい者の方がともに生活していることへの理解を深めることも大きな目標としていましたが、それが進んだと考えています。
- 県では、この高まった機運を活かすため、子どもたち向けに、デフ・パラアスリートを講師としたレガシー授業の開催、誰もが一緒に運動できる環境づくりなどに取り組んでいます。
- 今後も、障がい者スポーツの普及啓発によって、聴覚だけでなく、様々な障がいに対する県民の理解を深め、スポーツを通じた共生社会の実現につなげてまいります。